



公益財団法人 国際文化会館
International House of Japan

日文研・アイハウス連携フォーラム

光源氏と〈二人の父〉という宿命

—ブツダの伝記が照らし出す『源氏物語』の視界—

講師：荒木 浩（日文研教授）

コメンテーター：ゲイ・ローリー（早稲田大学教授）

2018年 **1/30** (火) 6:30-8:00 pm (開場 6:00 pm)

会場：国際文化会館 講堂 用語：日本語(通訳なし) 参加費：無料(要予約)

光源氏の妻子の造型には、ブツダの妻と子の出生をめぐる因縁譚が関わっている、という『源氏物語』の読み方が、中世には広まっていた。世界文学としての評価も高い『源氏物語』には、今後、広く国際的な視点からユニークな読解や作品構造の再発見が期待されていますが、今回は荒木氏にインドや東南アジアからの視野をも重ねながら、常識的な『源氏物語』像をくつがえす読みの可能性を追求していただきます。



荒木 浩 (日文研教授)

京都大学にて博士号取得(文学)。大阪大学大学院教授を経て2010年より現職。総合研究大学院大学教授を兼任。国文学研究資料館併任助教授、コロンビア大学客員研究員、ネルー大学、チューリヒ大学、チュラーロンコーン大学で客員教授を歴任。専門分野は日本古典文学。主著に『徒然草への途』(勉誠出版、2016年)、『かくして『源氏物語』が誕生する』(笠間書院、2014年)、編著に『夢と表象』(勉誠出版、2017年)、『中世の随筆』(竹林舎、2014年)などがある。



ゲイ・ローリー (早稲田大学教授)

1984年オーストラリア国立大学アジア研究学部卒業、87年日本女子大学日本文学研究科博士課程前期課程終了。95年英国ケンブリッジ大学東洋学部で博士号取得。2001年より早稲田大学法学部助教授を経て現在法学学術院教授・早稲田大学図書館副館長。専門は日本文学、特に『源氏物語』受容史および女性史。主な著書に『Yosano Akiko and The Tale of Genji』(2000年)などがある。

❖ 国際文化会館(アイハウス)と国際日本文化研究センター(日文研)は、多角的に現代日本の理解を深めるためのフォーラムを、シリーズで共催しています。

お申し込み・お問い合わせ

国際文化会館 企画部 (月-金 9am-5pm)

東京都港区六本木5-11-16 TEL:03-3470-3211

E-mail: program@i-house.or.jp <http://www.i-house.or.jp>

☎ 講演当日、予約確認メールまたは本チラシをご提示の上、国際文化会館内のレストランでお食事いただいた方には食後のコーヒー/紅茶もしくはアイスクリーム(ザ・ガーデン)、グラスワイン(SAKURA)をサービスいたします。ご利用の際は、事前ご予約をお勧めいたします。

